

尾道市立大学 大学院 2023

Onomichi City University Graduate Program

Economics, Management & Information Science

Japanese Literature

Art & Design

尾道市立大学大学院

21世紀と共に歩む尾道市立大学は、時代の要請に対応し、高度な専門的知識・能力、

それに裏付けられた創造性・判断力、高い見識などの育成に特化した、

実践的な教育を行う大学院修士課程を設置しています。

本学修士課程では、学士課程教育で培われた専門的素養をもとに、

変わりゆく時代と地域社会の姿に応じた、より高次の学修と研究に取り組むことができます。

入学検定料・授業料

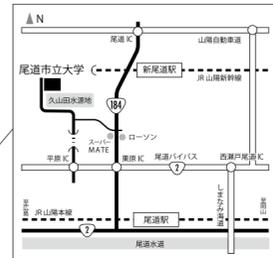
入学検定料	30,000 円
入学料	尾道市内在住者 282,000 円 上記以外 423,000 円
授業料(年額)	535,800 円

*「尾道市内在住者」とは本人又はその配偶者若しくは1親等の親族が尾道市内に、入学月の初日の1年以上前から引き続き住民登録をしている者です。

*外国人留学生は2分の1の額(入学料は「上記以外」の2分の1)です。

*本学学部生(卒業生を含む)が入学する場合の入学手続時納付金については、上記入学料から282,000 円を控除した額とします。

*経済情報研究科ではノート型パソコンが必須となります。



JR山陽本線「尾道駅」南口3番のりばから「尾道市立大学」または「陽光台」行きバスで約20～40分、「尾道市立大学」下車。
JR山陽新幹線「新尾道駅」南口3番のりばから「尾道市立大学」行きバスで約15分、「尾道市立大学」下車。
JR山陽新幹線「新尾道駅」からタクシー利用で約10分。
お車でお越しの場合、平原IC経由が便利です。



公立大学法人

尾道市立大学

〒722-8506 広島県尾道市久山田町 1600 番地 2
TEL 0848-22-8311



公式ホームページ



Facebook



Twitter



Instagram

○ アドミッションポリシー ○

● 経済情報研究科 経済情報専攻(入学定員8名)

経済情報研究科は、大きく分けて経済学・経営学・情報科学の3つの研究分野を持ち、学部教育をふまえ、より高度な研究と教育を行うとともに国際的な視野の下、経済学・経営学・情報科学の新しい発展並びに地域経済の要望をふまえた教育と研究に取り組んでいます。

このような教育理念のもと、経済情報研究科は、経済学・経営学・会計学・税務ほかの諸領域において活躍できる専門的職業人及び研究者、高度な情報科学の修得に基づき経済学・経営学・会計学・税務ほかの諸領域において活躍できる情報分野の専門的職業人及び研究者を養成することを目標としています。

更に、国際社会への貢献並びに教育・文化の国際交流の一層の促進のために優秀な留学生の受け入れを積極的にに行います。

このような教育理念・教育目標に基づき、経済情報研究科は以下のような人を求めています。

- ・官公庁や企業において経済・経営・情報分野の指導者を目指す人
- ・海外で活躍する国際公務員や公共団体・民間団体の国際交流担当職員を目指す人
- ・地域の活性化に貢献し、地域社会の指導者を目指す人
- ・税理士や公認会計士を目指す人
- ・経済学、経営学、会計学等の分野の研究者を目指す人

● 日本文学研究科 日本文学専攻(入学定員6名)

日本文学研究科の教育理念は、日本語、日本文学、日本の芸術文化を深く理解し、その理解のもとに国際的な感覚を身につけ、異文化を共有できる人、また、そうした能力により、社会活動や文化活動に指導的役割を果たし、社会の発展に寄与する人材を養成することにあります。

このような教育理念・教育目標に基づき、日本文学研究科は以下のような人を求めています。

- ・大学の学士課程等において日本文学・日本語学・漢文学に関する基礎的な知識と研究方法を修得している人
- ・自分自身の研究テーマをもち、それを自らの力で探究していこうという意志のある人
- ・本研究科での高度な学びを通じて、社会や文化の進展に貢献していこうという意志のある人

● 美術研究科 美術専攻(入学定員12名)

美術研究科は、個々人の資質を尊重し、表現者としてのそれぞれの立脚点と方向性を模索しながら、自己実現へ向けて、研究科教員と学生とのコミュニケーションを軸に研究を展開させたいと考えています。

このような教育理念・教育目標に基づき、美術研究科は以下のような人を求めています。

- ・専門分野の基礎的な知識や技術を修得している人
- ・明確な研究テーマを持ち、持続的な探求能力を有する人
- ・表現の実践的能力の修得と、研究成果の社会に向けた発信を行うことのできる人

□教育課程の特色

経済情報研究科

経済情報研究科では、次のような教育に重点を置いています。

- ・多様な専門知識とその実践的活用能力を備えた専門的職業人の養成
- ・他大学大学院の博士(後期)課程への進学を念頭においた研究者の養成

また本研究科は、教育研究の柱となる領域(分野)として、経済系、経営系、情報科学系の三つの分野で構成されています。現代経済社会を捉える基本的視点を確立するために、経済系・経営系の連携により現実の事象や問題を根底から理解する必要があります。そこで、経済および企業経営・管理等の研究教育を情報技術が支えるという枠組みに注目し、三分野を融合させた新たな学問領域の展開を目指すことに主眼を置いています。情報科学の成果を積極的に導入することにより、経済・経営両系のみで構成された既存の体系では得られない知見と問題処理能力を獲得できると期待されます。

日本文学研究科

日本文学研究科では、次のようなポリシーをもって教育課程を構成しています。

- ・オムニバス形式の授業により日本文学と言語文化を総合的にとらえる視点を養います。
- ・日本文学・日本語学・漢文学を基幹科目とし高度な専門知識と研究能力を養成します。
- ・基幹科目に関連した諸領域を選択科目として配置し、学際的視野と深い学識を養成します。
- ・国際文化・地域文化をとおした多様性への理解と対応力を養成する科目を配置しています。
- ・少人数教育・個別指導の教育体制を整え、修士論文執筆の力を養成します。

美術研究科

美の山門をくぐって本堂に立つ。

何をしにここにいるのか、何を求めてここに来たか。人生の一つの岐路である。

もはや師を頼っているところではない。

自分が自分の師であり、その弟子としての自分がいる。

それが美術系大学院生の本分である。

指導教員と互角の取り組みができることが

目的であり、こころざしである。

経済情報研究科 経済情報専攻（修士課程）

修了要件

本研究科に2年以上在学し、合計30単位以上の単位を修得し、修士論文審査および最終試験に合格すること。

学位

修士（経済情報）

取得できる資格

高等学校教諭一種免許状（商業）を既に取得している方で、本研究科で所定の授業科目の単位を修得し、修了要件を満たして修士の学位を授与された方は、高等学校教諭専修免許状（商業）を取得することができます。

長期履修制度

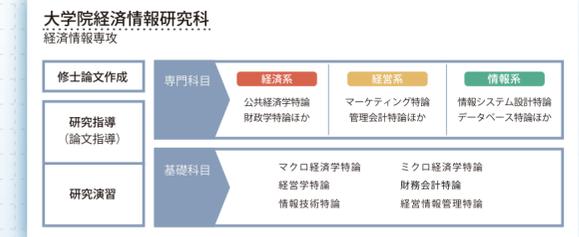
標準修業年限は2年ですが、社会人の学生のため、最長4年の長期履修制度があります。

秋入学制度

春入学試験と秋入学試験を分けて実施し、9月入学を可能にしています。

税理士試験について

税理士試験については、一定基準を満たせば「試験科目免除」制度の適用を申請することができます。



教育課程

教育課程編成にあたっては、基礎科目、専門科目、研究演習、研究指導（論文指導）という科目区分を導入し、各々について次の考え方を採っています。

- ① 基礎科目として、経済系のマクロ経済学特論、ミクロ経済学特論、経営系の経営学特論、財務会計特論、情報科学系の情報技術特論、経営情報管理特論を配置しています。基礎を重視した科目配置です。
- ② 専門科目として、経済系、経営系、そして情報科学系の主要科目を配置しています。中には、地域問題の考察の重要性が増している現状を考慮して、地方財政特論、地域経済論特論が設けられています。また、税理士希望者は、管理会計特論、簿記論特論、税務事例特論などの科目の学修が必要不可欠です。
- ③ 研究演習を1年次の必修科目とし、経済系、経営系、情報科学系の3系列について配置しています。文献研究や事例研究を通して、演習形式でより広く、より深く学修するものです。
- ④ 研究指導（論文指導）を2年次の必修科目として、経済系、経営系、情報科学系の3系列について配置しています。ここでは大学院生が各自のテーマに沿って研究報告を行い、修士論文作成のための指導を行うものです。

基礎科目		
マクロ経済学特論	ミクロ経済学特論	経営学特論
財務会計特論	情報技術特論	経営情報管理特論

専門科目			
経済系	計量経済学特論 国際経済学特論 地域経済論特論 日本経済史特論	財政学特論 経済政策特論 社会保障特論 貨幣経済学特論	金融システム特論 地方財政特論 経済学史特論 公共経済学特論
経営系	経営組織論特論 国際経営論特論 マーケティング特論	管理会計特論 租税論特論 企業法特論	簿記論特論 税務事例特論
情報系	データベース特論 情報システム設計特論	統計学特論 情報ネットワーク特論	数理計画法特論 大規模情報活用特論

研究演習	
研究演習Ⅰ	研究演習Ⅱ

研究指導（論文指導）	
研究指導（論文指導）Ⅰ	研究指導（論文指導）Ⅱ

- 修了必要単位数**
- 1.基礎科目から3科目6単位
 - 2.上記1以外の基礎科目を含み専門科目から8科目16単位以上
 - 3.研究演習Ⅰ・Ⅱ計4単位、研究指導（論文指導）Ⅰ・Ⅱ計4単位
 - 4.合計30単位以上を修得すること。

日本文学研究科 日本文学専攻（修士課程）

修了要件

本研究科に2年以上在学し、合計30単位以上の単位を修得し、修士論文または特定の課題についての研究の成果を提出し、その審査と試験に合格すること。

学位

修士（日本文学）

取得できる資格

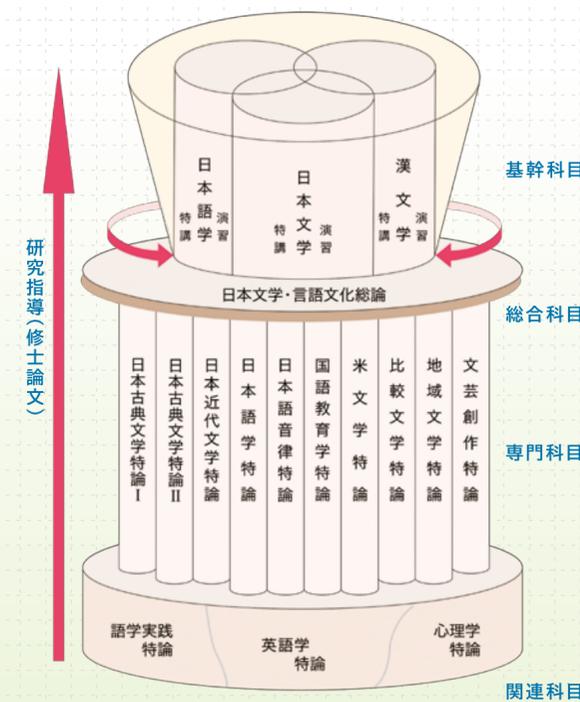
中学校教諭一種免許状（国語）または高等学校教諭一種免許状（国語）を既に取得している方で、日本文学研究科で所定の授業科目の単位を修得し、修了要件を満たして修士の学位を授与された方は、中学校教諭専修免許状（国語）、高等学校教諭専修免許状（国語）を取得することができます。

教育課程

日本文学研究科は、大きく日本文学・日本語学・漢文学の三つの教育研究分野を置き、学部教育のより高度な教育研究の継続・発展を図るとともに、新たに国際文化や地域文化の教養の充足を視野に入れた教育内容を策定しています。

教育課程としては、総合科目・基幹科目・専門科目・関連科目・研究指導（論文指導）の5科目を設けています。

総合科目には、オムニバス形式で編成した「日本文学・言語文化総論」を置き、多様化した現代社会に対応できる幅広い知の共有を図ります。



基幹科目・専門科目では、日本文学・日本語学・漢文学を重層的に研究します。すなわち、古代から現代に連なる日本文学の生成と展開及びその内実の考察、日本語の成立とその構造や機能等の追求、日本語や日本文学の成立と発展に大きな影響を与えてきた漢文学の展開と内質の研究などを図るものです。

専門科目の中に、「米文学特論」、「比較文学特論」を、また関連科目の中に「語学実践特論」、「英語学特論」を編成して、国際化・多様化した社会への知的対応を図りました。また、「地域文学特論」を専門科目の中に設け、豊かな人間性を備えた地域人の育成を期すこととしました。

関連科目の中に「心理学特論」を置き、教育界・学界などに貢献するために必要な観察力・洞察力の涵養を図りました。専門科目の中に「日本語音律特論」を編んだのは、日本語の音律を探索して日本語の表現体系を修得するためであり、それが文化の創出につながるとうところがあるがゆえです。また、「文芸創作特論」は、創造性及び想像性が豊かで、文筆活動に携わる人材、日常的・継続的に文章活動ができる人材の育成を期すものです。

研究指導（論文指導）を2年次の必修科目とし、大学院生の研究報告について討議や指導を行い、修士論文の作成を行います。

総合科目
日本文学・言語文化総論

基幹科目			
日本古典文学特論	日本古典文学演習	日本近代文学特論	日本近代文学演習
日本語学特論	日本語学演習	漢文学特論	漢文学演習

専門科目			
日本古典文学特論Ⅰ	日本古典文学特論Ⅱ	日本近代文学特論	日本語学特論
日本語音律特論	国語教育学特論	米文学特論	比較文学特論
地域文学特論	文芸創作特論		

関連科目		
語学実践特論	英語学特論	心理学特論

研究指導（論文指導）	
研究指導（論文指導）Ⅰ	研究指導（論文指導）Ⅱ

- 修了必要単位数**
- 総合科目 2単位
 基幹科目 16単位
 専門科目及び関連科目 8単位以上
 研究指導（論文指導）Ⅰ 研究指導（論文指導）Ⅱ 4単位
 合計30単位以上を修得すること。

美術研究科 美術専攻（修士課程）

修了要件

本研究科に2年以上在学し、合計30単位以上の単位を修得し必要な研究指導を受けたいうえで、修了作品および副論文を提出し、その審査と試験に合格すること。

学位

修士（美術）

取得できる資格

中学校教諭一種免許状（美術）または高等学校教諭一種免許状（美術）を既に取得している方で、美術研究科で所定の授業科目の単位を修得し、修了要件を満たして修士の学位を授与された方は、中学校教諭専修免許状（美術）、高等学校教諭専修免許状（美術）を取得することができます。

教育課程

- **基礎理論科目**
広く芸術に関する幅広い視野と識見を養うため芸術の理論・歴史等を学ぶ美学（芸術学）特講、美術史特講など
- **専門演習科目**
日本画材料技法演習、絵画総合演習、デザイン総合演習
- **専門実習科目**

修了必要単位数	
基礎理論科目	12単位以上
専門演習科目	2単位以上
専門実習科目	16単位以上
合計30単位以上を修得すること。	

修了生の声



大場 真美
(絵画研究分野日本画修了 16期生)



（逃れたいところ）
2021年 60.6×72.7cm 紙本彩色、麻紙、岩絵具、墨

私は4年間、尾道ではなく、地元のエデュケーションで美術教育を学んでいました。当時、履修した授業で日本画と出会い、より深く学びたいという思いから、尾道市立大学の大学院の進学を決めました。進学当時は、とにかく絵を描きたいという思いがありながら、自分がついていけるのか不安でいっぱいだったことを覚えています。

しかし、そんな不安が消えてしまうほど、大学院での学びは楽しいものでした。何より周りの学生や先生が真摯に制作に向かい合っている中で共に学べることが何より嬉しかったです。2年間という短い時間の中で、日本画に関する沢山の知識と制作を続けるための心構えを身につけることができました。

私は今、地元の絵画教室で働きながら制作を続けています。描くことが楽しくなる時もありますが、尾道で学んだ日々を思い返して、自分ができる精一杯の表現を続けていきたいと思っています。

絵画研究分野

日本画

日本画では、古典作品の表現、技法および材料の理解と造形感覚を修得させ、各自の個性的な創作力の育成を図る。教育課程の編成に当たっては各人の個性的な創作力の育成を主とした課程と、創作力の育成並びに古典模写を通して技法や材料の研究を深める課程の二本立てとし、指導の多角化を図る。



辻井 琴音
（遊めなかつたかたち）
181.8×227.3cm 麻紙、岩絵具、箔、墨



中武 竜也
（龍城なカタチ）
116.7×91cm 麻紙、岩絵具、箔、墨

油画

油画では、創作活動の充実を図るため各自のテーマを踏まえ、独自の絵画表現を追求し、また必要となる技法や素材の研究を促す。さらに、学生と教員との作品を介した相互の対話によって、表現の主体性を育み、それを支える造形志向の背景を考究させる。



木原 龍志郎
（溢れる）
103.3×162cm キャンバス、油彩



住井 里帆
（溢れる）
45×400cm ロール紙、シャープペンシル

デザイン研究分野

デザインの分野は、かつてレイモンド・ローイが「口紅から機関車まで」と語った言葉のように今も変わらない。それどころか、その範囲は現代のこの錯綜とした社会に生きる人間の、在りようにまで広がってきている。

従って、現代の社会構造の把握と、デザイン表出のあり方には、常にベクトルの解釈が不可欠である。美術研究科におけるデザインの分野は、好むと好まざるに関わらず、広い視野と柔軟且つ冷静な洞察力の獲得と訴求力のある表現力の育成を目的としている。

基本的には視覚伝達領域、メディア伝達領域、造形伝達領域の3分野に分かれ、それぞれ指導教員の研究分野を軸に対応する。



小佐々 瑛美 (Uscapne) 修了制作 映像



清水 美希 (クラック博士の研究室) 修了制作 木、草、真鍮他